

ひとひと  
女と男グッドパートナー

# つうしん いきいき通信



VOL. 4



湖南省男女共同参画リポーター・湖南省人権政策課

## インタビュー ～ともに輝いてイキイキと～

視覚障がい者のパソコン指導や図書の音訳など、ボランティア活動を活発にしている古谷あや子さん、  
男性の料理グループ「ほんまかいな鉄人の会」(代表 友野幸雄さん)のみなさんにお話をお伺いしました。



古谷さんは、市民学習交流センター(サンヒルズ甲西)で毎週1回、石部公民館や滋賀県立視覚障害者センター(彦根)で毎月2回、開催しているパソコン教室で指導をされています。  
また、毎週水曜日には図書館で新聞朗読のボランティア、ほかにも、もみじ・あざみ寮へ出向いております。



ボランティア活動をイキイキ楽しむ

古谷あや子さん



○ボランティアを始めたキッカケは

点字については中学校の担任教師の影響。結婚後、京都ライトハウスで二年間の点字講習を受けました。

子どもの頃から糸賀一雄先生※、岡崎英彦先生※と家族でのおつきあひがあり、福祉活動を身近に感じていました。

○いつから活動していますか

視覚障がい者のIT講座は7年目、視覚障害者センターでのITサロンは2年目です。

○活動のキッカケは

阪神大震災(1995年)のとき、神戸の視覚障がい者からパソコンを通じ、支援要請を受けました。パソコンを習得した段階から視覚障がい者との交流はありました。

糸賀一雄: 知的障害児・者の入所・教育・医療施設近江学園の創設者。「この子らを世の光りに」として人権福祉に取り組まれた。  
岡崎英彦: 近江学園に園医として参加。重症心身障害児施設びわこ学園初代園長。

## ○活動に対して家族の反応は

夫も早くからパソコンを使って仕事をしていましたので理解はありました。震災のとき、当時中学生だった子どもも、私とともに被災地でボランティア活動をしていました。

## ○活動してよかったことは

視覚障がい者とともに目線を同じくして、様々な体験をすることができました。藍染体験（下田の紺喜染織）や点字のついた湯飲みを作らせてもらったり（下田焼）、酒造会社（北島酒造）では、酵母室の中心まで見学させていただいたりしました。

## ○活動しているなかで困ったことは

楽しくないといけないので、まったくくないです。ただ、プライバシーを守りながら活動する難しさがあります。

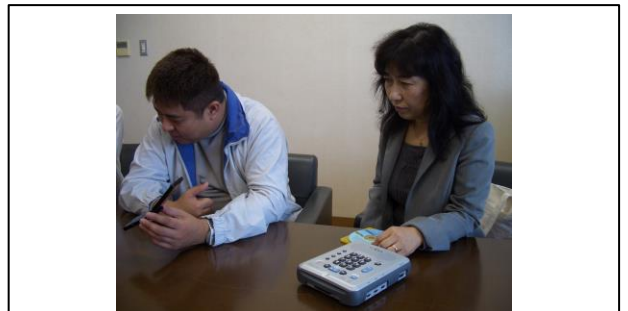
## ○最後に

視覚障がい者に対して、見えないからといって情報を省略しないでほしいです。たとえば、宛名書の敬称を省いた手紙、郵便物が届くことがありません。盆栽展や書道展、美術展などのイベント情報もくだ

さい。見えにくくても、いろんな情報があれば耳で楽しめます。パソコンは障がい者にも高齢者にもたくさんの情報を届けてくれます。情報を選ぶのは読み手であって、提供者は省略してはいけない、すべきではないと思います。



パソコン教室の開催時間は午前10時30分からだが、様々な時間に来られるので、いつでも対応できるようにしているとのこと。受講生の年齢は50歳から80歳まで。男女半々で、それぞれ自分のパソコンを持ち込んだり、センター内のパソコンを使ったりして、一生懸命取り組んでいる。



古谷さんの前には、デジタル録音図書再生装置 PLEXTALK(プレクストーク)。録音してある本を1ページずつ進めたり戻したり、ページ指定で開くことが可能。目次や商品番号などから、自分の読みたい場所に直接ジャンプさせることもできる。途中にしおりをつける機能もある。

\* 甲西図書館・石部図書館では、目の不自由な人に、この便利なプレクストークを無料で貸出しています。

受講生の人たちが音声ガイドを使って、パソコンに入力している姿に感銘しました。なかには50歳過ぎに突然、事故、病気などで光を失って視覚障がい者となり、挫折を繰り返しながらも、家族の励ましでパソコンを学習されている人もいます。

古谷さんのバイタリティーで活きとフルタイムで活動している姿に接して、パワーをいただくことができました。



甲西図書館で読売新聞を音読中。毎週の録音は17年目になるとのこと。朗読ボランティアのみなさんと。



## 料理を作ってイキイキ輝く

男性の料理グループ「ほんまかいな鉄人の会」



☆会長の友野さんにお伺いします。

○この会は、いつ頃から始められましたか。また、現在の会員数は

平成14年からで、会員は20人です。



メンバーは、市が主催した「男の料理教室」元受講生

○ほんまかいな鉄人の会はユニークな名前ですが、どなたがネーミングされたのですか。

結成当初に会長だった宮地さんのときから受け継いでいます。

☆みなさんにお伺いしました。

○料理教室に参加された理由は

- ・若い頃から母親が病弱で、自分ですることも多く、卵焼きなどは、いつも作っていました。参加するようになってレシピが増えました。
- ・会社を退職後、料理を習ってみようかと習い始めた頃、家内がケガをしたこともあって、すぐに役に立ちました。それから続けています。
- ・単身赴任で自炊をすることが多く、退職後腕を上げようと参加しています。

・若い者との同居では、老若で食べたいものが違ってくるし、体調に合わせて自分の食事を作るようになりました。

○料理をしてみてください感じられましたか

・今まで、なんとなく家内が作った料理を食べていたが、料理をすることがこんなに大変なことだとは思わなかったです。

・家内がレシピを見ないでも、手際よく料理を作っていることは「すばらしい」と感じました。

・家内の偉大さを感じました。



先生によると、献立は季節を感じるメニューを3~4品。また、必ずデザートは取り入れるようにしているそうです。季節により、お弁当を作って戸外で食事をするのも。料理をやってみないとわからないことも多いので、良い夫、良いおじいちゃんになってもらいたいとのこと。



上段:さんまの立田揚げ

中段:小松菜と油揚げの味噌汁、かぼちゃプリン

下段:ごはん、冬瓜とえびの中華風煮物

献立

○参加された当初と今とでは、どう変わってきましたか

- ・家では洗いのものをするようになりました。
- ・家族の誕生日会には、自分の料理やケーキで祝うようにしています。
- ・ひとり暮らしの方への弁当づくりのボランティアに参加しています。



## あとがき

昨年、血液型による自分説明の本が売れました。実際には血液型と性格に関連性がないように、「男は〇〇」「女は〇〇」といった型どおりの見方をしていることはないでしょうか。そうではなく、一人ひとりが個性と能力とを十分に発揮できる社会が、男女共同参画社会のめざす姿です。

男女共同参画リポーターは、地域に根ざしたまちづくりを進めるため設置されています。任期は1年。市内に在住か在勤されている20歳以上の人で、男女共同参画社会について興味を持ち、意欲を持って活動できる人ならどなたでも歓迎です。主な活動は「市民のつどい」の開催や新聞などの発行です。



ひとひと  
女と男グッドパートナー

いきいき通信 Vol.4

■発行 平成21年(2009年)2月

■編集 湖南省男女共同参画リポーター(川奈部洋子、熊谷由美子、富田むつみ、森富裕子)、  
湖南省人権政策課

■連絡先 〒520-3288

湖南省中央1-1

TEL 0748-71-2354

FAX 0748-72-2201

Eメール jinsei@city.konan.shiga.jp

湖南省人権政策課



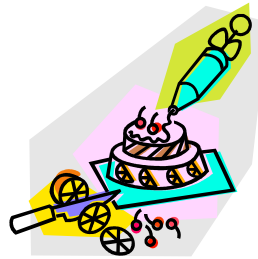
後片付けもキレイに

・家には主婦(女性)が多いので、台所に立ちたくても立つ場所がないです。

・教室では料理を作りながら、使用済の調理器や調理台など、手際よく片付けられるようになり、最後は汚れひとつ「ミニ」つないほどに片付けています。

### ☆会からの報告

地域への還元やお年寄りとの食事会など、ボランティア活動にも参加しているし、これからもどしどし積極的にやっていきたいです。



「ほんまかいな鉄人の会」のみなさんを取材させていただき、大発見をしました。料理することで奥様にすごく感謝の気持ちを持たれたことは、主婦にとっても女性としてもすごく嬉しいことです。男も女もお互いにそれぞれの仕事や活動を体験してみても、お互いの大変さが理解しあえることをつくづく感じました。

みなさんの心のもった手料理でお食事をさせていただき、大変おいしかった思いは、生涯二度とない体験でしょう。みなさんのお料理の腕がますます上達され、良い夫、良いおしいちゃんになれることを祈念します。ありがとうございました。

### 湖南省人権尊重都市宣言

すべての人は、しあわせに生きる権利をもっています。それが基本的人権であり、誰にも侵されることのない永久の権利です。

わたしたちは、日本国憲法と世界人権宣言の理念にのっとり、一人ひとりの基本的人権を尊重し、あらゆる差別のない心のかよあいあいなまちの実現を願っています。

